

明政クラブ

まちづくり

九州新幹線西九州ルートフル規格化に向けた取組

問 佐賀県との合意形成に向けた、今後の取組方針について伺いたい。

答 国土交通省と佐賀県で協議が行われているが、議論が深まらない状況である。そのような状況の中、本市としては、新幹線の開業効果を最大化し、広く示すことが佐賀県側の市民や経済界の機運醸成につながると考えることから、長崎駅周辺のまちづくりを着実に進めるとともに、同じく新幹線開業を見据えたまちづくりを進めている諫早市、大村市、武雄市、嬉野市と連携して情報発信に努めていく。

また、国に対しては、フリーゲージトレインの断念から今日の状況に至った経緯を踏まえ、国の責任において佐賀県からフル規格化への理解が得られるよう、長崎県及び沿線市とともに要望していく。



▲西九州新幹線「かもめ」車両

子育て

少子化に対する本市の子育て支援策

問 子育て世帯から住みたいまちと思われるような特徴的な施策を行う考えはないか。

答 本市は、「子どもをみんなで育てる子育てしやすいまち」を目標に掲げ、子ども福祉医療費の中学校卒業までの助成など経済的負担の軽減のほか、令和5年度には、子育て支援センターの市内全区域への設置完了を目指している。

また、長崎のもぎき恐竜パークの供用開始や、本年10月にオープンするあぐりの丘の全天候型子ども遊戯施設など遊び場の充実に取り組みとともに、子育て世帯に向けた住まいの供給なども行っている。



今後とも市民に分かりやすい子育て支援の情報発信に努めていくとともに、少子化対策は、喫緊の課題であることから、令和4年度の重点的な取組の一つに位置づけ、子育て支援に限らず、結婚、仕事、住まいなど関係部局で連携し取り組んでいきたい。

公明党

平和

核兵器禁止条約第1回締約国会議への取組

問 新型コロナウイルス感染症の影響で令和4年3月の開催は延期となったが、これまでどのように準備を進めてきたのか。また、延期後の会議に向けて今後どのように取り組んでいくのか。

答 発言の機会があれば、締約国の核兵器を世界からなくそうとする強い意思と勇気ある行動に感謝の意を表するとともに、核兵器廃絶に向けて結束をさらに強めるよう訴えることを考えていた。また、条約を批准していないものの参加を表明している国と対話を始める機会の創出を検討していた。

なお、延期後の会議にもできる限り参加する方向で調整したいと考えており、広島市や条約推進国、国際NGOなどと連携し、世論を喚起するための新たな取組の実施に向け調整を進めるなど、被爆地として力を尽くしていく。



平和

黒い雨訴訟と被爆地域拡大の取組

問 国は、広島の黒い雨訴訟で原告と同じような事情があった方も早急に対応を検討するとしているが、本市の黒い雨と被爆地域拡大の取組の現状を伺いたい。

答 国指定の被爆地域がいびつな形となっていることから、平成27年度から長崎原子爆弾被爆者援護強化対策協議会を通じ、被爆地域の拡大を国に要望している。

このような中、広島黒い雨訴訟を受け、国、広島県市及び長崎県市による協議が行われたが、長崎は過去の裁判例との整合性や黒い雨の存在を示す客観的な資料がない等の理由から、救済の対象に含まれないとされた。

現在も国と協議を続けながら、広島、長崎の裁判の事実認定で用いられた書証の分析作業を進めるとともに、県主催の専門家会議において証言調査の客観性について有識者による検証を行っている。

今後、被爆体験者の救済のため、国に訴えていきたいと考えている。

概要

一般質問

特別委員会からの報告

議決結果

2月定例会審査の主な内容

人事、請願等

各委員会の構成等